

平成 29 年 1 月 17 日放送

題材「のどの癌について」



JA とりで総合医療センター
耳鼻咽喉科 部長 池上謙次

司会者：のども癌ができるのでしょうか？

池 上：癌というと、肺や胃、肝臓など皆さんが聞き慣れた臓器にできるものが有名ですね。でも実は、のども癌ができます。

司会者：のどのどのあたりにできるのでしょうか。

池 上：のどには「咽頭(いんとう)」と「喉頭(こうとう)」があり、そのどこにでも癌が発生します。咽頭も喉頭も口の中より奥の場所です。いずれも粘膜で覆われていますが、そのどの場所にも癌ができる可能性があります。それぞれ、「咽頭癌」「喉頭癌」と呼びます。また、首のことを「のど」と呼ばれる方もいらっしゃいますが、医学用語では「頸部(けいぶ)」と違って「のど」とは区別します。

司会者：咽頭と喉頭、あまり聞き慣れない言葉ですが？

池 上：主に男性で確認しやすいのですが、首の外側から「のどぼとけ」を触れると思います。この「のどぼとけ」の中が喉頭で、それ以外の部分が咽頭にあたります。のどには呼吸のための空気の出入りや食物が一緒に通りますが、喉頭はそれを分けてくれる場所です。気管や肺に空気だけを通したり、声帯を振動させて音声のもとを作り出す働きがあります。咽頭には主に食物や唾液を食道側へと送り込む役目があります。

司会者：そういった場所に癌ができると、はじめはどのような症状が出るのですか？

池 上：喉頭癌の初期では、声がかすれるといった症状が大半です。咽頭癌の初期ではのどの違和感や飲み込むときにのどに引っかかる感じがすることがあります。また、本当の初期の場合や前癌病変という癌の一手手前の状態では、いずれも無症状である場合もあります。また、癌が発生する部位によっても自覚しにくい例があります。そのような場合、進行してから見つかる例も少なくありません。

司会者：咽頭癌や喉頭癌が進んでしまうと今度はどのような症状が出てくるのでしょうか？

池 上：咽頭と喉頭はすごく近いので、癌が進行するとどちらも同じような症状が出てきます。声のかすれがひどくなったり、食事がのどを通りにくくなるために食事に時間がかかったり、むせやすくなったりします。癌がかなり大きくなってしまった場合には、空気の通り道をふさいでしまって呼吸困難を呈する例もあります。また、進行癌では先ほどの「頸部」にしこりができたり、首のみかけの左右差が出てきたりします。主に「リンパ節転移」と呼ばれる癌の転移によるものがほとんどです。

司会者：リンパ節以外への転移もあるのでしょうか？

池 上：咽頭癌や喉頭癌もほかの臓器の癌と同じように、肺や肝臓、骨、脳などに遠隔転移を起こすことがあります。肺への転移が健診のレントゲン検査で見つかることもあります。

司会者：さきほどのような症状が出た場合、耳鼻咽喉科を受診することになるとと思いますが、診察室ではどのような検査を受けるのでしょうか。

池 上：患者さんからの問診がとても大事です。飲酒や喫煙の程度、いつ頃から声がかすれるのか、そのきっかけがなかったどうか、初めての症状か、徐々に症状が進んでいるかどうか、最近胃の内視鏡検査を受けていないか、「逆流性食道炎」と言われていないかなど慎重にお話を進めます。問診の後、口の中の状態や頸部の状態を視診(目で直接見ること)や触診(実際に触れて調べること)でチェックします。咽頭も喉頭はそのほとんどが口の中からは見えない場所なので、口の奥に鏡を入れて反射した像を視診で確認したり、鼻から細い内視鏡を入れてモニターに映しながら詳しく観察します。鼻の奥はのどにつながっているんですね。のどの内視鏡検査は鼻に麻酔のスプレーをしてから行いますので、比較的楽に検査を受けていただけます。こういった一連の診察で声のかすれの原因が声の出し過ぎが原因であると分かったり、のどの違和感の原因が胃酸の逆流のせいだと分かることもしばしばです。

司会者：実際に癌が疑われた場合、更にどのような検査や流れになりますか？

池 上：癌の診断には口の中を経由して直接、あるいは鼻から処置用内視鏡を使って生検を行います。同時に、CT 検査や MRI 検査、頸部の超音波検査などの予定も組んでいきます。癌の疑われる場所に本当に癌細胞が出ているのかどうか、癌だとするとどの程度の拡がりがあって、どれくらい進行しているのかを知る必要があります。

司会者：咽頭癌や喉頭癌にはどのような治療法があるのでしょうか。

池 上：どちらも音声や呼吸、飲み込みに大きく関わる場所なので、できるだけその機能を犠牲にしないように、かつしっかりと治療する必要があります。小さいものでは放射線治療だけで治ってしまうものや簡単な切除で済む場合もあります。抗癌剤の治療をあわせて行うこともあります。ある程度以上大きくなってしまったり、リンパ節転移がかなり広がってしまっている場合には手術が必要になります。その場合、粘膜をある程度取り除かなければなりませんので、のどの機能が犠牲になったり、失われる部分にかわってほかの場所から皮膚や粘膜を移植する必要も出てきます。大きな手術の場合、それが成功して命が助かって、声を失ってしまったり、口から食事が摂れなくなってしまう方もいらっしゃいます。

司会者：癌を早い段階で見つけることが大事だということがよく分かりました。咽頭癌や喉頭癌の原因、日常生活で予防できることがあれば教えてください。

池 上：咽頭癌・喉頭癌は食道癌や肺癌と同じように、飲酒や喫煙が多い方に発生率が高い傾向があります。一部は遺伝やウイルス感染で決まってしまう部分もありますが、多くの場合、過度なアルコールやたばこが原因となり得ますので、飲み過ぎ、吸い過ぎには十分注意してください。また、どのような癌にも共通して言えることですが、ストレスが多いと癌細胞が生き残る確率が高くなるので、生活習慣に注意し、ふだんからリラックスできるような環境作りも積極的に行っていただければと思います。